

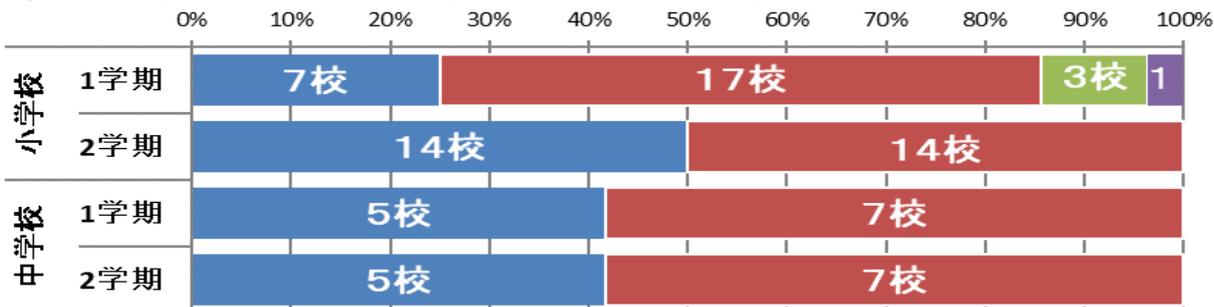
1 いじめ防止対策改善プログラム自己点検シート（まとめ）について

アンケート項目別集計結果について

※やや課題がある、課題があるとした学校からの意見を併記
《各項目の4評価の割合》

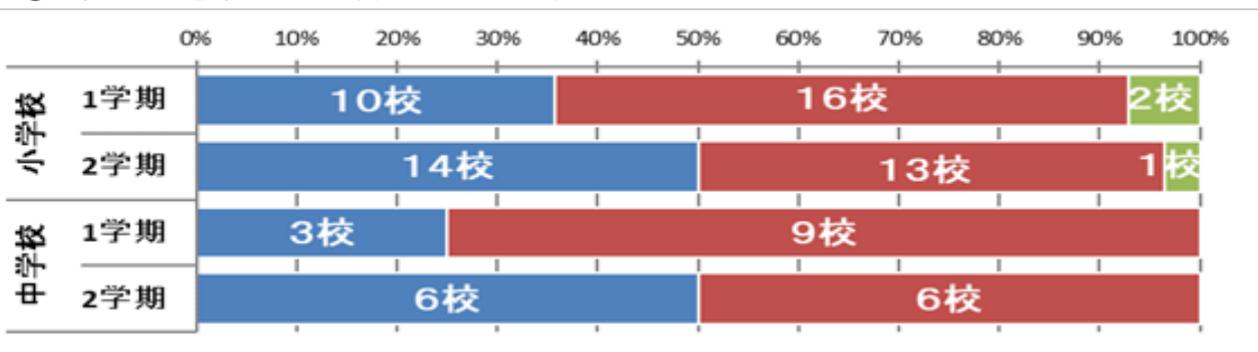


① 互いに認め合い、支え合い、助け合う仲間づくりができたか



※すべての学校が評価点3以上

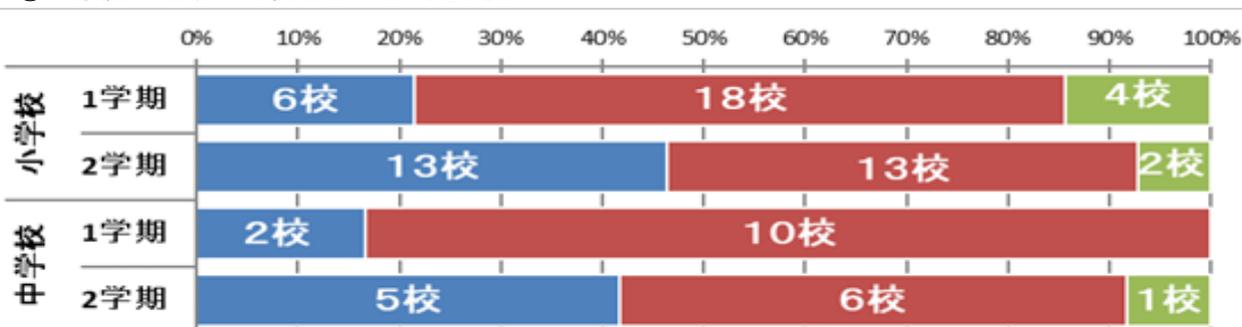
② 命や人権を尊重する態度、豊かな心の育成ができたか



〈改善策と今後の予定〉

- ◆ 人権学習の参観日も実施できなかったため、道徳教育との連携はできないままになっている。来年度のカリキュラム検討に向けて連携を進めたい。

③ 家庭や地域への働きかけができたか

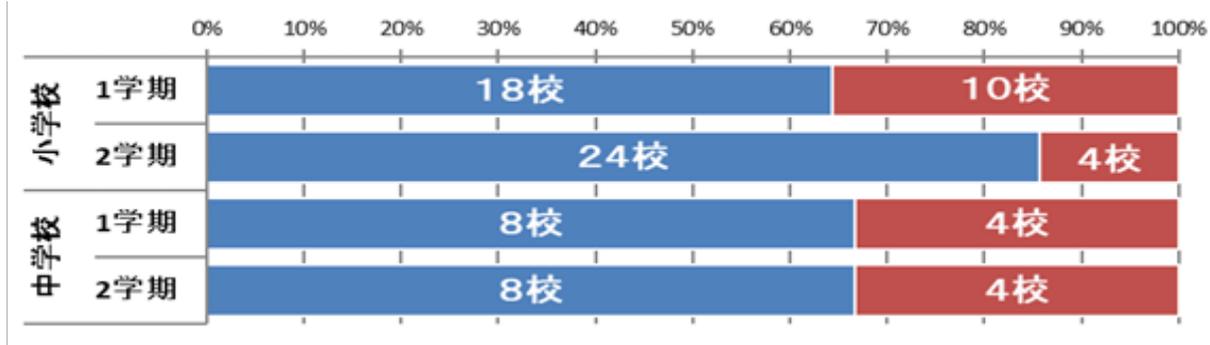


〈改善策と今後の予定〉

- ◆ コロナ禍で分散参観を行ったが家庭へ十分な働きかけを行う機会を確保するには難しい点がある。日々の授業の中で、いじめ防止の取組を行いたい。
- ◆ 3学期、1年のまとめとして教育相談だよりをSC・SSWと連携して作成し、特にSSWの役割について発信していきたい。

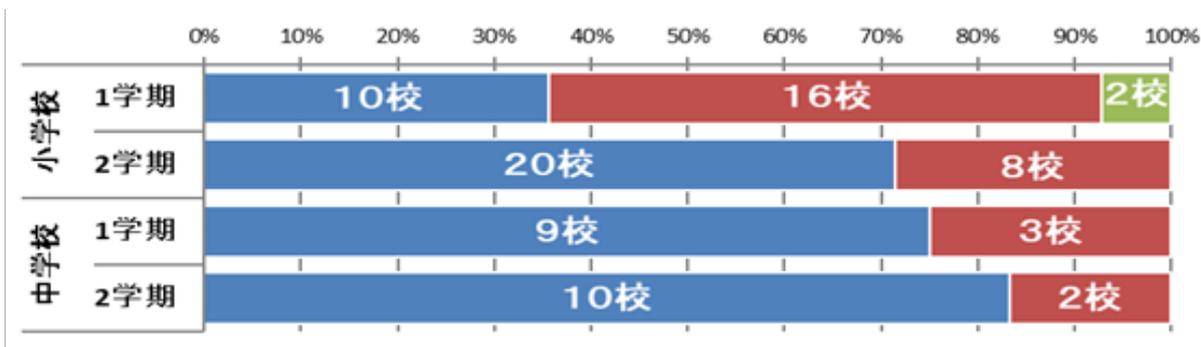
- ◆ 啓発チラシやホームページ活動を実施していく。
- ◆ 保護者が来校する機会も増えたので、オープンスクールや授業参観で啓発活動を積極的に行う。

④ 学校環境適応感尺度「アセス」が適切に活用できたか



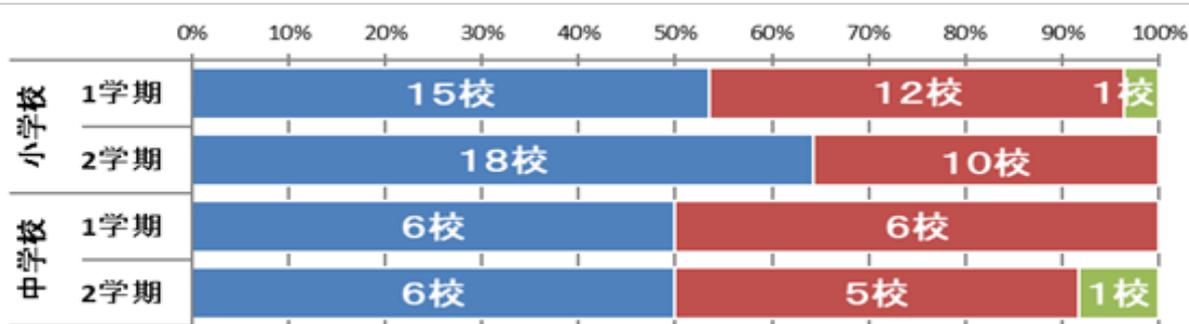
※すべての学校が評価点3以上

⑤ 児童生徒の相談行動の促進ができたか



※すべての学校が評価点3以上

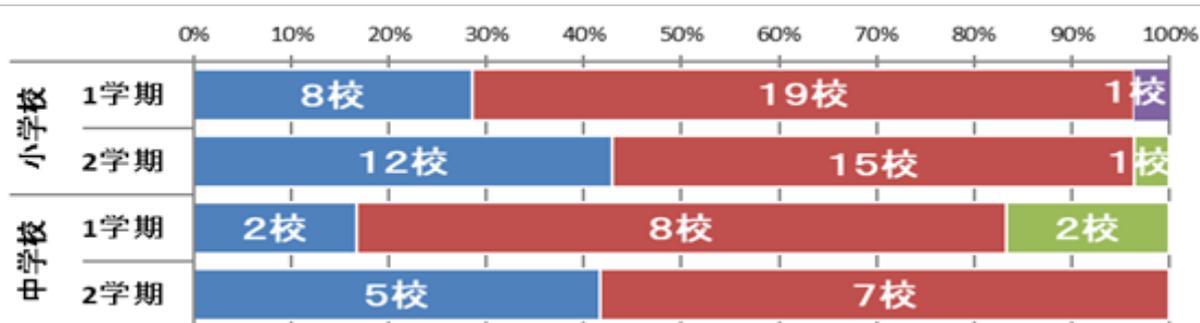
⑥ 多方面からの実態把握と情報共有がなされたか



〈改善策と今後の予定〉

- ◆ 保護者が来校する機会も増えてきたので、オープンスクールや授業参観で啓発活動を積極的に行う。

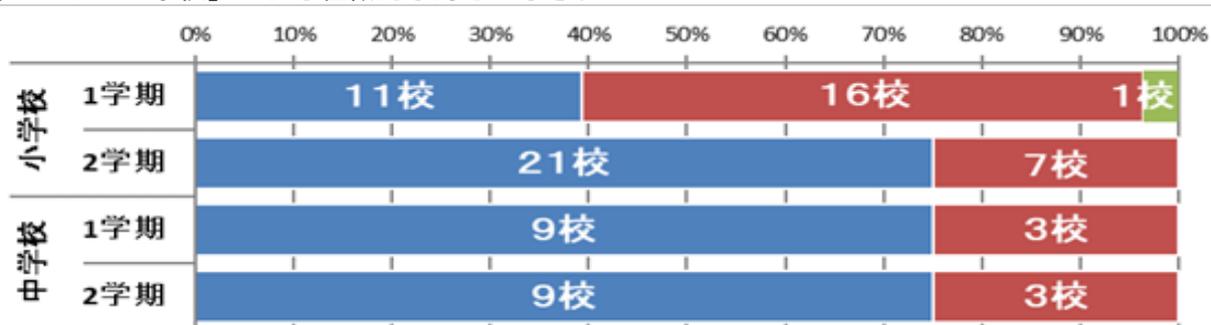
⑦ 研修の充実による教職員の資質と指導力の向上がなされたか



〈改善策と今後の予定〉

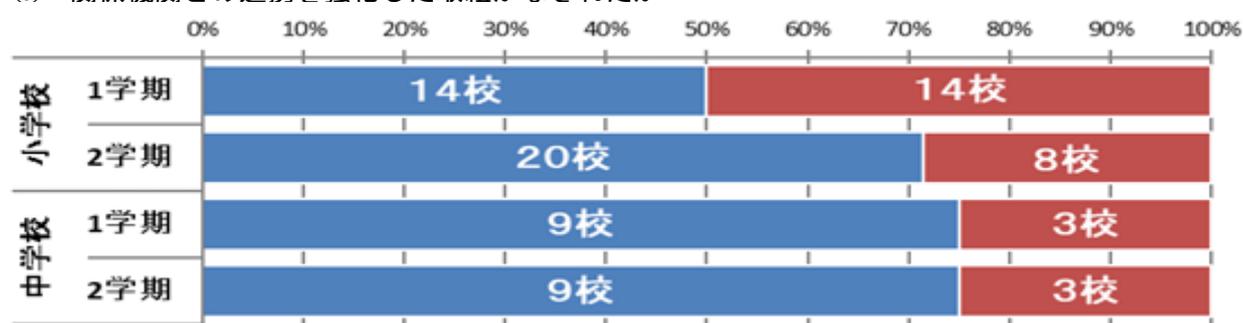
- ◆ 校内で研修を持つ時間の確保が難しい。長期休業期間を利用して実施していきたい。研修を受けた教員はその内容を全職員にフィードバックする意識を持つようにしたい。

⑧ 「チーム学校」による組織的な対応がなされたか



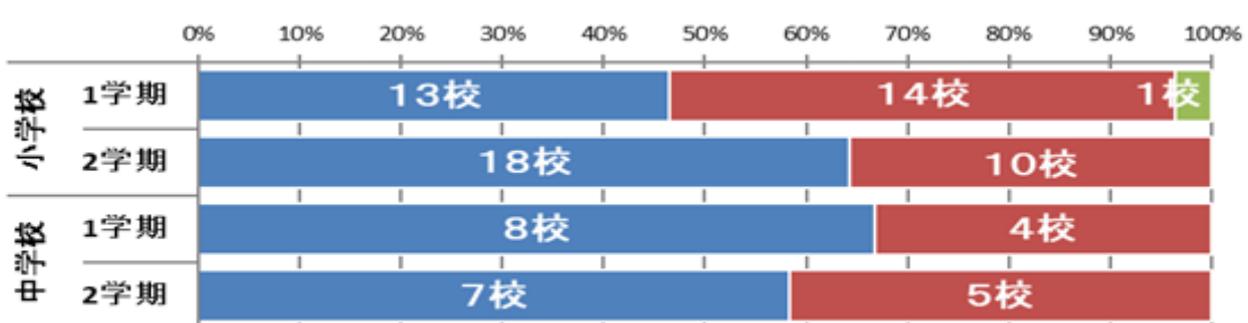
※すべての学校が評価点3以上

⑨ 関係機関との連携を強化した取組がなされたか



※すべての学校が評価点3以上

⑩ 推進体制・検証体制を整える取組がなされたか



※すべての学校が評価点3以上

2 各学校の特色ある取組について（2学期報告）

【小学校】

- 事案が発生した際には、ケースによって教育相談センター、少年愛護センター、家庭支援課等の関係機関にも協力を要請し、迅速かつ組織的な対応を行った。
- 児童会活動として「ペアフレンド活動（異学年交流）」の取組を行うなど、児童が主体的に心の
- 年に2回実施する教育相談だけでなく、児童が相談しやすい雰囲気づくりに努めている。
- 心の絆プロジェクトとして、オンラインビンゴゲームを実施し、異学年での交流を深めた。
- 引き続き、生徒指導体制を見直し、常日頃より報告・連絡・相談の徹底を図り、組織で様々なことに対応できるように努めている。また、生活部会より「生活だより」を各家庭に毎月発行し、毎月の生活目標、学校から保護者へのお願い、指導方針を分かり易く伝えられるようにし

ている。それに合わせて、職員が共通して指導しやすいように資料を作成し、指導のぶれが生じないように努めた。

- 2学期始業式と9月の児童集会で児童会役員がいじめの種類や本質・現状・対策などについて話し、各クラスで取り組めることを考えようと呼びかけた。それを受けて各クラスで学級会を開き、「スマイル宣言」を作り、教室と校内掲示板に目標として掲げた。

(例) 人にされて嫌なことは絶対にやらない。笑顔あふれる毎日を作ろう<6年2組>

見て見ぬふりはやめよう。クラスの絆を深めよう<5年4組>

思いやりをもって、助け合いなかよくします<4年4組>

「ありがとう」「ごめんね」「だいじょうぶ？」をすぐに言う<3年3組>

ふわふわことばと助け合いで笑顔にします！<2年4組>

ともだちをたいせつにする<1年2組>

- 縦割り班での活動を行った。新型コロナウイルス感染症予防に留意しながら、全児童が楽しめる催しを縦割り班で考え、児童が主体となって協力しながら実施する活動も行った。その際、児童が話し合っ活動内容を決め、実施も児童が協力をして行うようにしている。
- 校内では、児童会が積極的に全校児童に向けていじめ防止の取組を行っており、子ども主体によるいじめを許さない集団作りが進んでいる。
- インターネット・SNSでのいじめ予防の手立てとして、独自のインターネットルールを作成した。5・6年生の児童に、インターネットの利用状況についてのアンケート調査を行い、スマホ、タブレットを使うときのきまりについて、児童会を中心に作成したものを全校児童に配布した。保護者と児童が話し合っ、家庭ごとにインターネットのきまりを書き込める欄を作り、保護者と協力しながら、児童が決まりを守って気持ちよくネットが使えるように取り組んだ。
- インターネットトラブル防止講座をストリーミング配信で実施（3～6年生）し、SNSやゲーム機などネットに関連するいじめ防止に努めた。講師派遣による情報モラル教室を実施した。
- アセスと心の相談アンケート（3～6年生）に加えて、1・2年生には本校独自の「生活相談アンケート」を実施した。
- 心の絆プロジェクト関連で、「あったかハート」を実施した。児童会が主導し、全学年・全クラスの児童が、必ず一つはハート形のお手紙が届くよう、日頃の「ありがとう」を友だちへ伝える取組を実施した。いじめ・自殺予防の取組とも関連している。

【中学校】

- 適応指導教室を2部屋設け、不登校気味の生徒への丁寧な対応ができるようにしている。
- 学校評価に資する「教職員アンケート」の質問事項に「授業改善」を十分に追加し、自己評価の過程で、生徒理解についてメタ認知できる仕組みを取り入れた。
- 月に一度、生徒指導・不登校・いじめ対策推進委員会を開き、情報の共有、指導体制の見直し、関係機関との連携についての話し合いを行っている。
- 日々、学級担任が生徒と連絡ノートを通じて情報共有を行い、あらゆるトラブルの早期発見に努めている。
- 生徒会中心の「ありがとう集会」の実施や、PTAと協力して「いじめ防止標語」の作成・啓発を行った。
- いじめ防止に向けたのルール作りや、制服の改訂に向けた議論など、生徒会を中心とした生徒発信の取組を教員が支える意識づくりを行っている。
- 生徒会・児童会代表者ミーティングの結果やいじめ防止市民フォーラムに内容を学校だよりや学校ホームページ、生徒会が発行する生徒会便りなどに掲載した。